

| | | | |
|--------------|------------------|------------|------|
| 授業科目名 | 行動科学の基礎(2000016) | | |
| 時間割名 | 行動科学の基礎(52202) | | |
| 時間割担当 | 吉岡隆之 | | |
| 実施期 | 後期 | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 金・2 | | |

授業の目標・概要

行動科学は、人間と社会の行動に関する総合的学際的学問である。本講義では、まず、行動科学の歴史的背景及び代表的な理論やモデルについて概説し、人間の思考や行動に関する基礎的な考え方について考察する。また、生活習慣や人間関係に関する行動変容について、近年の行動科学の視点をおりませながら学際的な観点から考察を行う。その上で、人間の行動変容を支援する方策を模索する。

学習の到達目標

1. 行動科学の歴史的背景及び代表的な理論やモデルに基づき、人間の思考や行動に関する基礎的な考え方について理解する。
2. 生活習慣や人間関係に関する行動変容について、近年の行動科学の視点をおりませながら学際的な観点から学び、人間の行動変容を支援するための基本的な考え方や方策を理解する。

授業方法・形式

基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるために一部、演習やグループワークなども取り入れる。適宜、デジタル教材等による授業もおりませで行う。また、毎回、授業内容に関する小課題の提出を求める。授業内容に関する積極的な意見の発表、発言などを奨励する。

授業計画

- 第1回 本授業のガイダンス、行動科学（歴史的背景を含む）について
- 第2回 脳と心： 知覚
- 第3回 脳と心： 記憶
- 第4回 脳と心： 思考、コラム構造をもつ新皮質
- 第5回 行動と信念（考え方）の統合： 解釈する脳、脳のメカニズムと信念の形成
- 第6回 行動と信念（考え方）の統合： 行動変容、偏見など
- 第7回 代表的な行動理論・行動科学的アプローチ： 自己効力感、変化のステージモデル
- 第8回 代表的な行動理論・行動科学的アプローチ： 計画的行動理論、ストレスコーピング
- 第9回 代表的な行動理論・行動科学的アプローチ： ソーシャルサポート、コントロール所在
- 第10回 代表的な行動理論・行動科学的アプローチ： ナラティブアプローチ・ストレングスアプローチ
- 第11回 代表的な行動理論・行動科学的アプローチ： その他の行動科学的アプローチ
- 第12回 信念形成のメカニズムと行動変容支援：ナラティブセラピー、芸術療法など
- 第13回 信念形成のメカニズムと社会的過程：主観尊重と形式尊重、個人と社会など
- 第14回 行動科学に関するトピック
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

定期試験50%、小課題40%、授業への取組（積極的発表、発言など）10%

授業時間外の課題

毎回の授業の終了時に、授業内容に関する小課題及び次回の授業内容に関する小課題を課し、自己学習（復習・予習）を促す。小課題は次回授業開始時に提出する（一部、自主的な発表を求める）。

メッセージ

できる限り授業内容に関する受講学生の意見を聞きながらすすめたいと思っていますので、積極的に自らの意見を述べて下さい。また、自己学習を重視します。

教材・教科書

特定のテキストは使用せず、授業内容に関する資料等を配付する。

参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。